

**このデータは、本校で使っているものを資料集（第39回障害児教育研究協議会において配布）用に編集し直したものです。記入例に出てくる児童・生徒名，教師名，および記入内容は架空のものです。**

**愛知教育大学附属特別支援学校 特別支援教育推進部**

個別の教育支援計画 NO. 1 プロフィール表

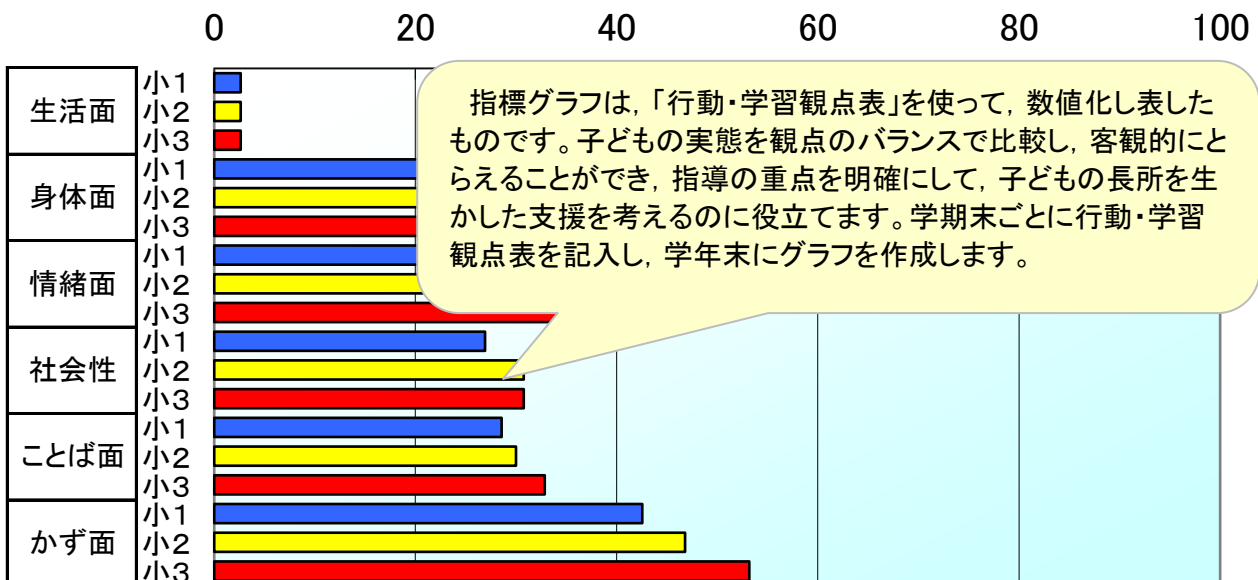
愛知教育大学附属特別支援学校

ふりがな 氏名	ふとく はなこ 附特 花子		性別	生年月日
			女	平成23年6月1日
住所	〒444-0072 岡崎市六供町八貫15		電話(0564) 21 - 7300	
家族構成	父(太郎) 弟(あおい) 母(千代) 姉(さくら)	主障害	自閉症	
生育歴	・ふよう保育園(平成26年4月～平成30年3月) ・愛知教育大学附属特別支援学校小学部(平成30年4月～)		有効期限が切れている場合があるため、確認をする。	
療育手帳・愛護手帳	A	有効期限	31年 11月	
身体障害者手帳	無	認定年月日		
障害福祉サービス受給者証	有	障害支援区分		
		有効期限	31年 3月 31日	
地域生活支援事業に関する受給者証	有	名称	地域生活支援事業受給者証	
		有効期限	31年 3月 31日	
障害者医療費受給者証	無	有効期限		
服薬: なし	薬の種類:	投薬時間:		
発作: なし	発作の様子・型:	頻度:		
アレルギー:	処置:			
関係機関・所見等	名称・連絡先	利用頻度	サポート等の内容	
	◇◇病院 精神科 ○○先生 0564-44-22○○	3か月に1回	開始 年 月 ~ (終了 年 月) 問診	
	NPO法人 ○○ 0564-◇◇-◇◇◇◇	1週間の3, 4回	開始 年 月 ~ (終了 年 月) 日中一時文 本世, 家庭の都合(一時中止)	
	○○スイミングスクール 0564-22-○○○○			
	こども発達センター ○○先生 0565-11-○○○○			
	○○ケアセンター 0564-77-○○○○		日中一時文 援	
	○○病院 0564-88-○○○○	1か月に1回	作業療法	
<p>サポートの利用開始時期だけでなく、停止日やその理由なども記録しておくことで、現在に至る経過がわかるようにしています。</p>				
<p>NO. 1 プロフィール表: 児童生徒調査票や家庭訪問などの記録をもとに、4月に学級担任が基礎情報を書きくわえていきます。変更等ある場合は、随時、追記・修正をしていきます。</p>				
作成者				
作成日	平成30年3月15日			

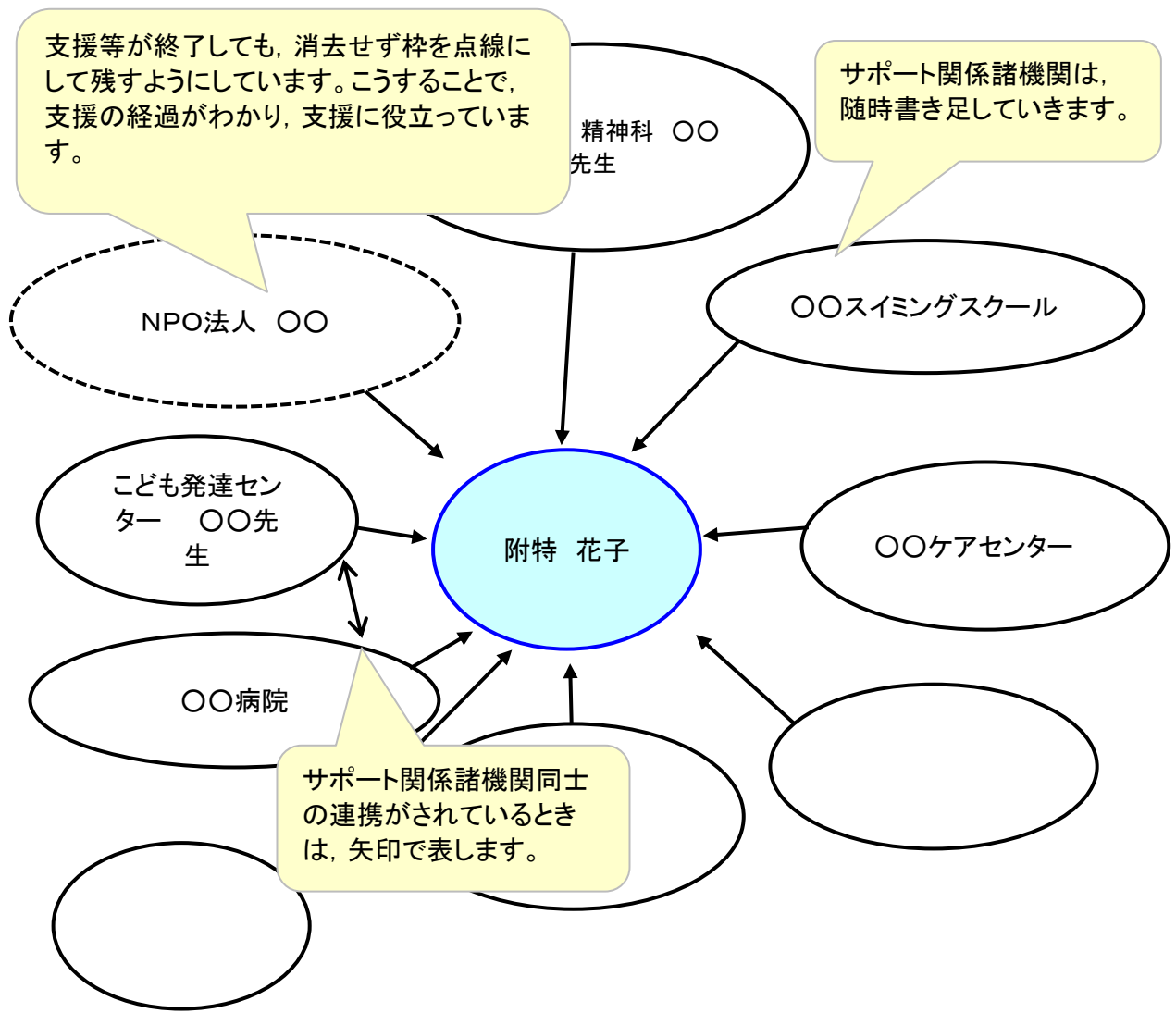
個別の教育支援計画 NO. 2 行動の様子の記録(小学部) 愛知教育大学附属特別支援学校

氏名	附特 花子		作成者	鈴木 ○○					
作成年度	平成30年度								
	平成31年度								
	平成32年度								
児童生徒の様子	生活面			身体・運動面					
	小1	手洗いをした後、ポケットからハンカチを取り出すことができた。 着替えに時間がかかるが、最後まで自分でやろうとするようになった。	小1	手先が器用で紙にぐるぐると線がきができる。 小さなビーズをひもに通して遊ぶことを好む。					
	小2	<p style="background-color: #fce4ec; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;">NO. 2 行動の様子の記録:学級担任が、子どもを観察し、その都度ポイントを絞って記入します。年度末にまとめて清書をし、具体的な支援目標を立てる際に活用します。3年で1枚の記録になります。</p>							
	小3						3		
	情緒・自己統制面						社会生活・コミュニケーション面		
	小1	「いただきます。」をするまで、食事に手をつけずに待つことができた。	小1	押すと音が出る五十音表を使って、簡単な要求を伝えることができた。 様子を表す写真と[してください][ください]というカードを組み合わせて、簡単な要求をすることができた。					
	小2		小2						
	小3		小3						
	学習(ことば)面			学習(かず)面					
	小1	自分の名前をかくとき、「ゆ」の枠に縦の点線が引かれているのを見て、枠の右半分に小さく書くことができた。	小1	1対1で対応すると具体物を1から4まで数えられる。					
	小2	<p style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;">客観的な事実を書きます。</p>							
	小3						小3		

指標グラフ(行動・学習観点表における達成度・子どもの伸びそうな面の把握)



NO. 3 サポート図:子どもが現在、学校以外のところで各種の支援を受けている関係諸機関を図に表したものです。現在のサポート状況の把握や、今後、子どもの支援に必要なサポート関係機関の見通しを立てたり、連携の見直しを図ったりするために活用します。



氏名		附特 花子		入学		平成30年度 小学部入学						
各 段 階 の 目 標 と 支 援	親のねがい		子どもの目標		支援の方針と概要(関係機関からの支援)							
	小学部 〔1・2・3年〕	発語以外のコミュ		したいこと、行きたいところ		五十音をすべて認識していることがわかったので、給食を						
		<p><b>NO. 4 支援計画:</b>子どもの実態と親の願いや教師の願いを考慮して、目標を立てます。計画の作成担当が変更となった場合でも、引き続き適切な支援が一貫して行われるように、計画に係る責任の明確の観点から、「支援計画」を作成します。そして、この「支援計画」は、卒業まで継続して使用されます。</p>										
		おもむき		3								
	小学部 〔4・5・6年〕	それぞれの願いは、先を見通した大きな目標を精選して記録します。		親の願いに、教師の願いも考慮に入れて目標を立てます。必要に応じて支援方法を再考し支援目標が達成できるよう方法を見直していきます。								
		5年		6年		生活の変化があっても、安定した気持ちで物事に取り組む。周りの人とコミュニケーションをうまくとれるようになる。						
		生活の中で、新しいことにチャレンジしようとする気持ちを大切にさせ、最初は一緒に活動するなどの支援をしながら、得意なことをのぼせるようにする。体を積極的に動かすようにさせたい。特に、歩くことをさせたい。		1年		得意のイラストが評価され、NPO法人の活動を通して一つのかたちになった。ミニチュアの学校、コンビニエンスストアなどを精力的に制作しているので、ほめ、励まし続けられるとよい。活発な友達の影響で、進んで人前で体を動かしたり						
	中学部	・新しい体験をたくさんさせてやりたい。 ・その中で打ち込めるものがあれば、見つけてやりたい。 ・バス通学ができるようにしたい。 ・一人で簡単な買い物ができるようにしたい。		2年		友達に声をかける場面では、教師が寄り添ってきっかけになる言葉を伝えるように支援した。少しずつであるが、言葉によるかかわりが見られるようになってきた。						
		3年				朝の集会の司会では、はじめは教師が寄り添ったり、プログラムを見たりする必要があったが、やりかたに慣れてくると、一人で進められるようになった。						
		・自分からあいさつができる。 ・大人になっていくにつれて、自分をコントロールすることを学んで欲しいと思う。(今、自分が相手に聞きたいことがあっても、先にあいさつをするなど)・バス通学になれさせたい。 ・安全に横断歩道を渡ることができるようにしたい。 ・バス通学になれさせたい。		1年		初めて会う人にもあいさつができる。周りの様子を見て、何をしたらよいか考えて行動する。						
高等部			2年		交通安全教室で、安全な横断歩道の渡り方を繰り返し行った。また、バス通学ができたことを連絡帳にて知らせていただいたときには、バス通学が一人でできたことを全体の場でほめた。							
			3年		一人でバス通学できた日は、ほめることを繰り返したことで、2学期後半からは、バス通学ができるようになった。							
	<p>子どもが伸びようとしているところを見つけて、子どもにかかわっている教師が話し合っ決定し、支援を受ける子どもの経過が引き継ぐときによくわかるように、ポイントを絞って記入します。保護者との面談、連絡帳等を通して、児童生徒の支援の実際を常に把握できるように努め、追記していきます。</p>											
卒業後												
	作成者	小学部1年	鈴木 ○○	小学部4年	小学部5年	小学部6年	中学部1年	中学部2年	中学部3年	高等部1年	高等部2年	高等部3年

		目標・支援	成果・支援の評価等
教育 (学校外)	中1	新しいことにも、積極的にチャレンジさせ、まわりとのかかわりや、好きなことを見つけていくようにする。 <b>支援項目・内容は、年度初めに記入します。</b>	活発な友達の影響を受け、集団の場で自分を積極的に表現できるようになってきた。
	中2	周囲の状況や教師を意識する中で、同じように活動したり、自分なりの成果を果たしたりできるようにする。	学部の集会や学芸会行事(山の生活、生徒会選挙等)で、人前で話す機会を設けたことで、はっきり話すことができるようになった。
	中3	周囲の状況や教師を意識する中で、同じように活動したり、自分なりの成果を果たしたりできるようにする。	生徒会長に就任し、行事などで話す機会が増えたことで、友達に目を向ける機会が多くなってきた。
家庭生活	中1	<b>家庭訪問、個別懇談会など家庭との話し合いを経て記入します。</b>	<b>左記の支援項目・内容に対応して、子どもの具体的な姿がわかるようにして、できたか、できていないかを記入します。</b>
	中2	バスでの登校ができるようにしていく。自動販売機で買い物ができるようにする。	バスでの登校ができた。
	中3	起きる時間を少し早めることで、バス通学ができるようにする。	早起きはできるが、支度に時間がかかってしまうと、母親から度々報告をいただいた。時間に対する意識を高め、引き続き、バス通学を目標にしたい。
保健・福祉・医療	中1	生理については自分で対応する。何かあった時は、自分から教師に知らせる。	生理については、自分でひととおりのことをすることができた。
	中2	昨年に同じ。	昨年に同じ。
	中3	マスクをかけたり、手洗いやうがいをしたりして、病気に対する予防や対処ができるようにする。	外出後の手洗い・うがいなどに、自ら取り組むことができた。体調がよくないときは、マスクなどで対処することができた。
地域社会・親の会等	中1	「流」で家族や学校の友達以外の人も一緒にいろいろな活動をする。	Tシャツの完成パーティーで、イラストレーターの人とのやり取りでパフォーマンスをするときに、うまくやりとりをすることができた。
	中2	昨年に同じ。	「流」での宿泊をすることができた。
	中3	1, 2年生と同じ。学校以外の人のかかわりを広げていく。	「流」での活動を楽しみにしており、他学部や多学年の友達と仲よく過ごすことができた。
労働(就労)	中1	作業の手順を覚え、効率のよい方法を学ぶ。	一通り、作業内容を行えるようになったあと、トレーの中により多くの部品が並べられるよう、袋の置き方を教師の示す見本を見て覚えることができた。
	中2	一つ一つの作業の工程において、正確に取り組み、速さにも気をつけて行う。	部品の入った袋をステーブラーで留めて、トレイの上に決められた数ずつ並べることができた。
	中3	決められた量の作業を完了させることができるようにする。	決められた量の作業を完了させることができ、終わりの時間を速めて取り組むことができた。
その他の支援事項	中1		
	中2	<b>NO. 5 具体的な支援と評価: 担任が前年までの個別の教育支援計画の記録や引き継ぎ会での情報をもとに5項目についての支援の目標を立てます。そして、年度末に成果や支援のあり方を評価します。</b>	
	中3		

※学校内の教育については、個別の指導計画を参照。